岡山の病院力

31

毎週火曜日掲載

ホームページ
岡山の病院力
http://iryo.sanyo.oni.co.jp

岡山中央病院

岡山市伊島北町

☎086・252・3221

病院開設期から泌尿器科、産婦人科、透析部門を中心としてきた。1999年、現在地に新築移転し、急性期の医療機関となった。循環器センターでは急性期の心疾患に対応し、救急専門医による救急部がある。地域医療支援病院として、地域の医療機関と連携している。（江草明彦）

岡部　亨院長

主に紹介型の外来と入院診療を行い、救急告示病院として急性期の医療を担っています。平均在院日数は二〇〇七年度で八・八日。病床数は百六十二床で紹介率が80％以上、逆紹介率は50％以上になります。

地域医療支援病院としては、百を超える地域の医療施設と連携し、患者さんへのケアの連続を保証しています。また、DPC（包括評価）対象病院であり、七対一の看護体制をとっています。

二〇〇六年には院内を改装して、循環器センターを開設。急性期の心疾患にも対応できるようになりました。

年間の救急搬入は約千五百件。救急部では救急専門医が待機し、ドクターカー＝写真＝を備えています。今春には、川崎医大病院と連携し、新見地区から心臓疾患の患者さんを搬送することを想定したドクターヘリコプターによる急性期の医療を担う訓練をしました。研修医教育では、こうした救急医療を学ぶことができます。急性期に対応しながら地域医療に貢献し、教育にも力を入れています。

急性期の医療担う

循環器センター

岩崎孝一朗センター長

二〇〇六年にセンターを開設。循環器内科と心臓血管外科があり、一般病床三十六床、重篤な心疾患の全身管理を二十四時間行うICU・CCU（冠疾患集中治療室）を六床備えている。

◇

「心臓のCT（コンピューター断層撮影装置）は六十四列のMDCTを導入しており、冠動脈の造影（カテーテル検査）と同じぐらいの画像を得ることが可能だ」と岩崎孝一朗センター長。早期の動脈硬化を検出できるのが特徴。約三十分で解析できるため、検査当日に結果を知ることができる。

MDCTは一回転する間に六十四枚の断面画像を撮影し、冠動脈の血管内を映す。内腔に蓄積した動脈硬化の塊・プラークを見ることが可能だ。岩崎センター長は「MDCTで冠動脈に異常がなければ、カテーテル検査の必要がない。また、MDCTと心臓超音波検査で心臓の病気はほとんどが分かる」と説明する。

さらに、「急性心筋梗塞を起こす冠動脈プラークを検出した。糖尿病の場合は85％にあった。

心筋梗塞の予防には、冠動脈のプラークを発見することが有効であることから、MDCTを取り入れた心臓専用のドックを行っている。

◇

急性心筋梗塞などに対応できる体制をとっている。カテーテル検査で高度の狭窄がある場合、カテーテル治療を行う。岩崎センター長は五千例以上の治療実績がある。

治療はステント植え込み術が主。最近は再狭窄を防ぐ薬を塗った「薬剤溶出性ステント」により、従来の一年以内20―30％の再狭窄率が、センターでは2％

岩崎センター長（右端）による心カテーテル治療（岡山中央病院提供）

動脈硬化早期に検出

心筋梗塞治療に効果

狭窄の大部分が中等度となった。これは、血管内エコーを補助的に使って治療していることも大きく影響している。動脈硬化の程度や狭窄の長さなどを正確に測り治療しているのだ。

冠内圧測定は千二百例ある。これにより冠動脈狭窄を適切に評価でき、不要なカテーテル検査をしなくてすむ。

◇

センターは学会発表や論文発表を意欲的に取り組んでいる。岩崎センター長はカテーテル検査・治療の本を今年、米ニューヨークの出版社から出す予定。

こうした治療、研究の実績から、米国の紳士録「マークィーズ・フーズ・フー」に掲載された。

泌尿器科

尿路結石の治療で使われる結石破砕装置。ほとんどが日帰りで治療を受けることができる

結石破砕　即日で対応

泌尿器科は開院当初からある代表的な診療科だ。尿路結石のことで、結石を破砕する治療を、体内の結石に収束させる治療には、早くからESWL（体外衝撃破砕術）を導入している。結石破砕装置によって発生させた衝撃波百二十八回）。うち96・9％の七百三十四人が治療を終えると帰ることができる日帰りだった。「痛みを訴えて外来で来られたら、即日（月―金曜）で対応する」と入江伸副理事長。

尿路結石は食生活の欧米化が影響し増加傾向だ。「水分の摂取が少なかったり、大食漢であることや寝る前の食事など」（入江副理事長）が原因とされる。

尿路性器がんの新患者数は、〇七年が百五十人。このうち、高脂肪食や年齢が高くなるにつれて増える前立腺のがんは、半数以上の八十八人と最も多い。膀胱がんが四十二人と続く。

〇七年の前立腺の手術は、前立腺がん全摘除術が三十四人、前立腺肥大症の経尿道的前立腺切除術（TUR―P）は三十二人。生検は百六十五人だった。膀胱がんの内視鏡手術は百十四人、全摘除術は七人だった。

岡山中央病院で前立腺を全摘した患者の会があり、年に一、二回集まり情報交換などをしている。

お産の前後を過ごす部屋は個室

木村吉宏センター長

ウイミンズメディカルセンター

主体的なお産を支援

入れている。

このため、医師のほか助産師が健診をする「助産師外来」がある。また、助産師が一人一人を担当する受け持ち制をとりフォローしている。

妊娠中の生活を安心して過ごすためのセミナーを開いている。体と心の準備をする「分娩リハーサル」をはじめ、夫のサポートについて学ぶ「パパママ学級」、孫を迎える祖父母を対象にした「おじいちゃんおばあちゃん学級」、妊娠期に起こりやすい腰痛防止の「妊婦体操」などがある。

妊娠八カ月ごろに「バースプラン」を作成し、希望するお産について医師や助産師と相談する。「産まれてくる赤ちゃんへのメッセージや産後の感想を記してもらう。主体的にお産にかかわることが良い育児につながる」という。

LDR室は陣痛期、分娩期、回復期を一つの部屋で家族と過ごすことが可能。また、全室個室で二十室ある。

退院後も電話で相談にのる「電話訪問」や「おっぱい外来」でケアを継続している。